

9月のことば

教育 ～「考える②」想像力 ～読書の重要性

「あの月を とってこれると 泣く子哉。」(小林一茶)は、好きな句である。秋の夜に美しく映る“月”について、日本人は科学的情報がない時代から様々な想像し、考えて、ロマンをかき立てて、満ち欠け等から生活の工夫・知恵を生み出した。

しかし、探査機が月面着陸を果たし、月に関する情報がインターネット・スマートホンの画面からボタン一つで見られるようになると、誰も夜空を見上げて“月”から得られる新たなファンタジーも、生活の工夫を考えることもなくなった。

つまり知識が増えて知恵がなくなった。人は、情報だけが増えると考えなくなる。「考える」ためには、情報を得て脳に至り、様々な事を想像し、更に情報を確認し、一つの結論を出す。という手順が必要である。

そこで一考。

1. 映像 ～ 視覚情報が満載。
⇒情報を整理し想像する事も必要でなく、考えずに済む。
2. 音声 ～ 文字では出せぬニュアンス、韻律が含まれる。
⇒音やニュアンスを想像せず考えずに済む。
3. 読書 ～ 文字。
⇒情報量少ない故、^{ゆえ}足らずの所を自らの想像力で補い考えるようになる。

(テレビを視ると想像して考えない脳になっていく事が分る)

————— * ————— * —————

勉強は、はじめから資料のみ多く集めてつなぎ合わせても意味がなく、物事を考えてから資料を参考にするものでなければならない。

恋愛も、その人を調べ尽くし、情報がありすぎるとできぬものである。まず会って、話してフィーリングをつかみ様々なことを想像する。そして我が心とその人の^{こころばせ}意が合っているかを考えて、嬉しさを覚える。

秋の夜。貴方は前記、一茶の短い句から、何を想像しどれだけの事を考えることができますか。